

いしかわ里山塾志賀町班における活動内容と成果

## 「七尾市大呑地区におけるグリーンツーリズム」

団体名 いしかわ里山塾七尾班

代表者氏名 工藤 明日香

執筆者：工藤明日香

### はじめに（背景・目的・目標）

世界農業遺産活用実行委員会「いしかわ里山塾」事業の活動補助を受け、七尾市大呑地区において金沢星稜大学と金沢大学の大学生 11 名が能登体験型インターンシップを行った。そしてその経験・学び・地域の子供たちに知ってもらいたい事をまとめ出前授業を行った。活動目的は、地域の生業・暮らしを知り、持続可能な新たな産業を検討する。地元小学生へのふるさと教育の実施による Uターン促進に貢献する、という 2 点である。目標として、若者・ヨソ者・バカ者の視点から地域住民の方や地元小学生へ新たな視点の提供や大学生のプレゼンや授業から新たな発見を促す。

### 活動内容

8 月 24 日から 29 日まで、七尾市大呑地区に滞在し、漁体験・木こり体験・薪割り体験・農作業・地域活動への参加・地域住民との交流会等を体験した(表 1)。

表 1 インターンシップスケジュール表

日付	活動内容
8 月 24 日	移動日
8 月 25 日	薪割り体験 ピザづくり 散策(棚田見学) 阿良加志比古人神社
8 月 26 日	七尾城跡草刈り活動 親子作業サポート
8 月 27 日	木こり活動 伐木・枝切り体験 林業後援会
8 月 28 日	漁師体験 ミーティング
8 月 29 日	提案発表

### 成果、結果の考察

大呑地区では川海山が揃っている。川では鮎捕り、海では漁師体験(写真 1)、山では木こり体験など、大呑の魅力を知る上で全て必要な活動であった。また様々な体験を通し共通していたのは「人の暖かさ」という魅力である。活動中は常に地域の方が野菜や魚やお肉を私たちが宿泊する大呑ハウスまで持参し、共に料理を行った。インターンが終わりに近づくと夕飯を大学生と地域の方々と共に食し夜まで語り明かした。インターン最終日のプレゼンでは、地域住民の方々が前日の告知にも関わらず参加をし、また大呑ハウスの改修案・活用案を前向きに検討してくれた。大呑地区では地域創生について池岡さんを中心に取り組もうとする意識や姿勢があり、また柔軟でもあった。インターン後は、小学生に対する授業内容をメンバーで合計 4 回のミーティングで完成させた。それまでも班を編成し、必要時に班ごとに集まる事もした。授業(写真 2)では、前半にインターンの学びを伝える講義式で後半は大学生と小学生でのアクティビティ形式をとった。結果、前半の丁寧な学びと共に後半では大学生と共にアクティビティを行うことでより学びを深化させた。また小学生に授業前後でアンケートを配布し小学生の満足度や授業での学びを調査した。



写真 1 漁師体験

出典：2018 年 8 月 28 日筆者撮影

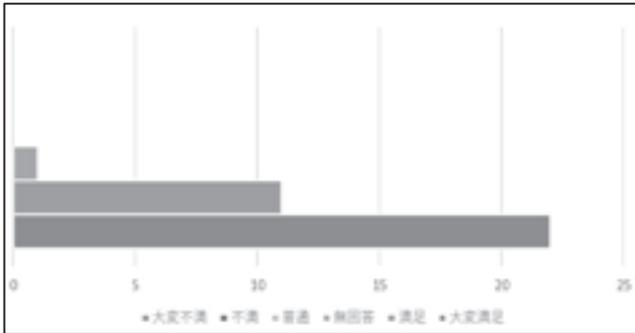


図1 授業の満足度

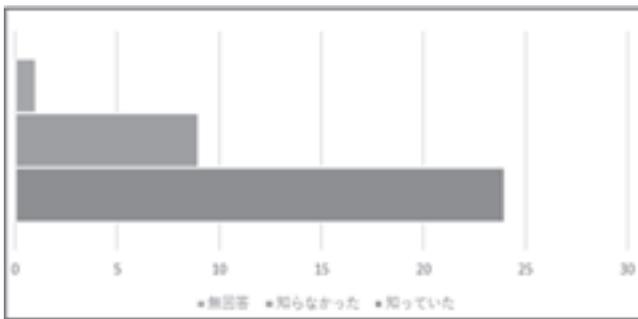


図2 世界農業遺産の認知度

授業後アンケートの図1から分かる通り、授業の満足度が高くより地域や里山里海に繋がり、ふるさと教育に貢献できた。また興味深いのが図2の世界農業遺産の認知度だ。七尾班のみ他班と比較して認知度が高い結果となった。小学校側に意見を求めた所、事前に特別な授業をしたわけでは無かったため、青拍祭など七尾市にある全国的に有名な祭りから影響を受け、認知度の高さに繋がったのでは、という見解だった。

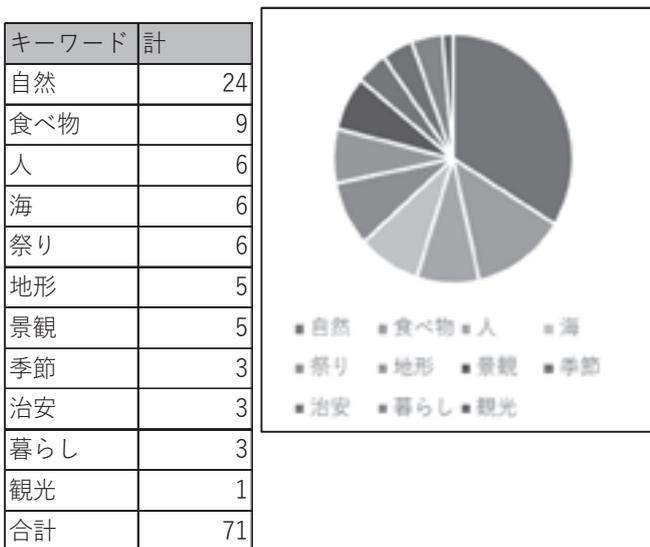


図3 児童が思う地域の魅力

また図3では、自身が思う地域の魅力を3つあげて回答してもらった。キーワードを集計すると「自然」が全体の25%以上を占める大きさだった。これは、小学生自身も自然が魅力的と感じ、世界農業遺産や里山里海の「自然」の魅力に再認識させる取り組みが有効であると考えられる。

### 今後の課題、展望

課題としては、夏のインターンから冬の授業まで5ヵ月以上間があくため大学生のモチベーション・当事者意識や一回一回の全体ミーティングの質をより向上させることが一番の課題である。この活動を一過性に終わらせず、持続可能なものにしていくには今年度参加学生から来年度以降もサポート学生として関わるなど、学生側も意識的に持続に取り組んでいく必要がある。そのためにも、やはり大学生のモチベーション・当事者意識の定着が必要である。

展望としては、大学生の体験型インターンシップ、その学びを地元小学校へ還元という流れはとても地域創生へ取り組むにあたり有効であり、今後は他の地区にもこの活動を広げていく事が重要であると考えられる。また小学生に対し授業を行った際、小学生から学ぶことも大いにあった。そのため、大学生が里山里海調査に参加する際も、小学生や地域の若者と交流を交えても相乗効果が見込めると考える。



写真2 東湊小学校での授業風景  
(撮影 2019年1月24日)